

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B1 ヒトのからだを探る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	コミュニケーションの生物学	エピジェネティクスと生命	
対象学部	歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	弦本 敏行	責任部局	医歯薬(医学系)
趣 旨	生物に限らず、あらゆるものにおいては、その機能を最大限に発揮するために必然的にそのようなかたちが成り立っています。したがって、ヒトのからだを観察すると、ヒトがヒトとなりえた所以が随所に見て取れます。その仕組みについて、おもに形態学の視点から学びます。さらに、ヒトのからだに生じる病気のうち、とくに“がん”に注目して、その本態から最先端の治療までをわかりやすく講義します。		
学生の皆さんへのメッセージ	形態学とはもののかたちからさまざまな情報をえて、その本質を理解する学問です。本モジュールではとくにヒトに焦点を絞り、そのからだを構成するさまざまな臓器、器官の成り立ちをわかりやすく説明します。さらに、皆さんが興味ある疾患に関して、大学病院で最先端の医療に携わっている外科医、形成外科医の方々が分かりやすく講義します。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
形態を科学する	田中 克己 今村 禎伸	人体はさまざまな組織・器官により構成されており、そのいずれも機能と形態の調和に基づいています。顔面、手・足をはじめとした各部位を形態の点から科学的に捉え、その変化についても考えてみましょう。	人体 形態 機能 科学
からだの中の反逆者・がん細胞との闘い	金高 賢悟 江口 晋 高槻 光寿 久芳さやか	“がん細胞”は体の外からの侵略者ではなく、もともと正常であった細胞が、加齢や環境因子などによる様々な遺伝子変化を経て発生したものである。現代医学はこの“反逆者”に対して、手術療法、抗がん剤、免疫療法にて対抗している。	がん 手術 化学療法 免疫療法
Visible Human Body	弦本 敏行 岡本 圭史 佐伯 和信 高村 敬子	ヒトのからだの解剖学をわかりやすく講義します。毎回の講義では、長崎大学の学生の皆さんがだれでも利用できる3D解剖学アプリ“Visible Body”を使って、自らの手で様々な臓器、器官を見つけ出し、観察しながら、理解を深めていきます。	人体 解剖学

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点			
											A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
形態を科学する			○	○	○		◎	○				○		
からだの中の反逆者・がん細胞との闘い	○		○	○	○		◎					○	◎	
Visible Human Body	◎	○	○	○		○	○	○	○			○		○
◎(特に重視)の数	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0
○(重視)の数	1	1	3	3	2	1	1	2	1	0	1	2	0	1

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B2 健康と共生		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	ハンディキャップの理解	青壮年期における健康課題	
対象学部	歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	折口 智樹	責任部局	医歯薬(保健学系)
趣 旨	健康とはただ疾病や傷害がないだけではなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態をいう。また健康問題を考えるとき病氣や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる(共生)という視点が重要である。ここでの「共生」には「多様性」「人権」「リハビリテーション」「社会福祉」も含まれる。そのためにモジュール I では健康と共生について学ぶための基本的知識について概観する。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学修を進めていくことに関心がある方を歓迎します。受け身の学習態度ではなく積極的な学修態度で臨んでほしいと思います。		

科目名	担当者名	概 要	キーワード
人の健康について	折口 智樹 澤井 照光 田中 貴子	人の健康ならびに健康問題について理解する。 健康と生活・運動習慣、環境との関連について検討する。	生活習慣、運動、環境、健康問題
大学生のための健康社会学	平野 裕子	大学生生活を「健康」に生きるための基礎的な知識及び健康・病に関する基礎的な社会学理論を通して、ジェンダー、疾病・障害、民族、文化を超えた多様な人々との共生社会を構築するための視点を涵養する。	大学生生活、ジェンダー、病と障害、異文化、医療制度、少子高齢化
社会における精神健康	花田 裕子 中根 秀之 永江 誠治	社会から見た心理学・精神医学的側面、精神障害に関する基礎的内容(精神障害、その支援)について理解する。	シネマ・サイキアトリー、精神保健、精神障害

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
												取り扱う	取り扱う	取り入れる	現代的な話題を
人の健康について		◎	○		○	○	◎	○	◎			○	◎	○	
大学生のための健康社会学		◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	
社会における精神健康	○	◎		○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	
◎(特に重視)の数	0	3	0	1	2	2	3	1	2	1	0	2	3	1	
○(重視)の数	1	0	2	1	1	1	0	2	1	1	2	1	0	2	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B3 現代経済と企業活動		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	現代経済と企業活動c	現代経済と企業活動d	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	山口 純哉	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを理解するための一助として、本モジュールでは、日本経済の発展過程、企業の仕組みおよび活動を規律付ける法制度、公共部門の存在意義などを学びます。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らなければならぬ。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
経済活動と社会	南森 茂太	大学での専攻に関わらず、社会人として知っておくことが不可欠な日本経済の発展過程を学び、この過程が現在にどのような影響を及ぼしているかを考察する。	高度成長、安定成長、バブル経済、平成不況
企業の仕組みと行動	張 笑男	この講義では、会社法を中心に企業の仕組みおよび活動を規律付ける法制度について学ぶ。	会社法
経済政策と公共部門	山口 純哉	なぜ政府や地方自治体など公共部門が存在するのか、われわれは公共部門にどのようにかかわるべきなのか等について、経済学の視点などから検討します。	市場の失敗、囚人のジレンマ、合成の誤謬

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブラーニングの活用
経済活動と社会	○	○			◎		◎		○	◎	○	◎	○	○
企業の仕組みと行動	○	○	○	◎					◎				○	○
経済政策と公共部門		○			○	○	○	◎	○	◎	○	○	◎	◎
◎(特に重視)の数	0	0	0	1	1	0	1	1	1	2	0	1	1	1
○(重視)の数	2	3	1	0	1	1	1	0	2	0	2	2	2	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B4 変わり行く社会を生きる 1		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	変わり行く社会を生きる 2	多様性社会を生きる	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本テーマでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、心理、社会、そして価値観という3つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人一人は異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
心と社会	内野 成美	臨床心理学の視点から、言葉の果たす役割とコミュニケーションへの理解を深める。また、発達障がい、対人緊張など、様々な対人関係の困難が生じる事例をもとに、カウンセラーの役割を知り、相談の意義を理解する。	カウンセラー、心理相談、臨床心理士
社会とマスメディア	矢野 香	ことばや映像を活用して社会にメッセージを発信する新聞、ラジオ、テレビ、インターネットを取り上げ、その中でのことばの使われ方や映像の工夫などを理解するとともに、それらを批判的に受け取り、論理的に考える態度の育成を図る。	マスメディア、マイメディア、新聞、ラジオ、テレビ、インターネット
社会と教育	池田 浩	学力、いじめ等支援を要する児童への対応、防災教育等、現在日本の教育が抱えている課題等について理解するとともに、グローバル化、少子高齢化等、急激に変化する社会の中で求められる教育の在り方や自身が身に付けるべき資質・能力等について考える。	求められる学力、家庭・地域社会・学校の連携、危機管理(子どもの心と命)

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											取り扱う人文科学の内容を	取り扱う社会科学の内容を	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
心と社会	○				○	○	◎	◎	○		○	○	○	◎
社会とマスメディア	○	◎	○	○	○	◎	○			○		○	○	◎
社会と教育	◎	○	○	○		○	◎	○	◎	○		○	◎	◎
◎(特に重視)の数	1	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	1	3
○(重視)の数	2	1	2	2	2	2	1	1	1	2	1	3	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B5 海洋の生物多様性と生態系サービス		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	海洋生態系の保全と管理	食の安全と持続的な海洋食料資源の利用	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	滝川 哲太郎	責任部局	水産学部
趣旨	海洋は生物、鉱物、エネルギーなどの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは海洋生物の形態・行動・多様性、生命現象の化学、海洋環境と生態系との関連などを理解するために必要な基礎知識を習得します。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
学生の皆さんへのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 ・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。 		

科目名	担当者名	概要	キーワード
海の生物と多様性	竹垣 毅 菅 向志郎 柳下 直己	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系において起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術の基礎について、幅広い視点から講義します。	生態系・生物多様性・魚類・進化・遺伝子
海洋生物資源の生化学	長富 潔 吉田 朝美 平坂 勝也	生体分子（アミノ酸、タンパク質、核酸、糖質、脂質、代謝産物等）の化学構造、機能、生命活動における役割等を学び、海洋の生物資源（海洋遺伝子資源および機能性物質等）を食品・医薬品等として有効に利用するために必要な基礎知識を養います。	細胞・生体分子・生体高分子・遺伝情報・細胞機能
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	滝川 哲太郎 武田 重信 和田 実	海が存在と地球環境や人間生活との関わり、および、近年の複合的な環境変化が、海洋生態系に与える影響について、その現状と課題、我々が出来ることを共に考えていきます。	海洋環境・海洋資源・海洋生態系・海洋リテラシー

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	④	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
											知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て
海の生物と多様性	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○			◎	◎
海洋生物資源の生化学	◎	○	◎	○		○	◎	○	○			○	◎	○
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	◎	◎	○	○	○		○	○	○	○	○	○	◎	○
◎(特に重視)の数	3	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	1
○(重視)の数	0	2	2	3	2	2	1	2	3	2	1	2	0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	19-B6 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	見原 礼子	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、歴史、文化、社会、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
多文化社会における子どもと教育	見原 礼子	異なる文化的・宗教的背景を持つ人びとがともに暮らす社会において、子どもや教育にかかわる課題にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、日本とヨーロッパ諸国の多文化社会の歴史、政策、主要課題について取り上げつつ、具体的な事例を紹介しながら、多文化社会における移民の子どもの生活圏のリアリティとダイナミズムを理解することを目的とする。	多文化社会、ヨーロッパ、日本、子ども、移民、教育
アジアの多文化社会から日本の将来を考える	細田 尚美	グローバル化の時代、さまざまな国、文化、宗教の人たちとともに働き、暮らす方法を模索しているのは日本だけではない。この授業では、多様な文化的背景を持つ人たちと共存する方法を試みてきたアジアの国々の例を紹介する。具体的な事例を通じて、多文化共生にはいくつもの方法があることを学び、将来に向けて私たちはどのような多文化共生の方法を選びとるべきかについて議論する。	グローバル化 アジア世界 移民と交流史 多文化共生
九州の民衆史から世界の民衆史へ～国道3号線を手がかりに～	森 元斎	近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、民衆の視線で取り上げ、近代化の流れへの抵抗や、近代的なものからの暴力がどのようになされてきたのかを論じ、民衆がどのように生きてきたのかを明らかにします。これに加えて、九州に住む現在の私たちの思想を学ぶことも目的とします。	近代化、国道3号線、九州、思想史

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	国際・地域社会への関心	A 取り扱う 人文科学の内容を	B 取り扱う 社会科学の内容を	C 取り入れる 現代的な話題を	D アクティブ・ラーニングの活用
多文化社会における子どもと教育				○	◎	○	◎		○	◎		◎	◎	○
アジアの多文化社会から日本の将来を考える		○		○	○		◎	○	○	◎		○	○	○
九州の民衆史から世界の民衆史へ～国道3号線を手がかりに～							◎			○	◎	○		
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	1	0	3	0	0	2	1	1	1	0
○(重視)の数	0	1	0	2	1	1	0	1	2	1	0	2	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目